

令和6年度 学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	1 高い志を持ち、夢の実現に向けた確かな学力を身につけた生徒を育てる。 2 言葉を大切にし、他の人を思いやる、心豊かな生徒を育てる。 3 教育活動全体をとおして、たくましく生き抜く気力・体力を持つ生徒を育てる。 4 生徒と向き合う時間の確保及びワーク・ライフ・バランスの実現のため、業務の削減・簡素化・効率化及び勤務時間外の在校時間短縮を図る。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、生涯にわたって学び続け向上しようとする生徒を育成します。 ②ふるさとを愛し、地域、日本、世界の持続可能な発展に貢献できる生徒を育成します。 ③自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育成します。 ④規範意識が高く、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができる生徒を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①多様な進学希望に対応したカリキュラム編成で第2学年から文理選択科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現することにより、進路実現を図るとともに学び続ける力を育成します。 ②ICT機器を積極的に活用して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成します。 ③地域の課題に向き合い、情報収集して解決策を考え、成果を発表する探究学習「小千谷学」を主軸に、情報活用、課題発見・解決、自己表現する力を育成します。 ④授業のほか、学校行事や部活動、探究学習など全ての教育活動を通して、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育み、規範意識を醸成します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①向上心をもって学習、学校行事、部活動等に積極的に取り組み、自らの目標と進路の実現に向かって努力しようとする生徒 ②自他の心身を大切にすること、思いやりの心をもって他者を理解すること、協働して新たな価値を生み出すこと、に意欲のある生徒。 ③社会に関心を持ち、自ら課題を見つけ、その解決に向けて努力しようとする生徒 ④服装、態度、言葉遣いなど、場に応じた適切な行動をしようとする生徒	
昨年度の成果と課題	令和6年度の重点目標	具体的目標
・令和5年度卒業生190名の大学等進学率は75.8%(R4:71.1%)、国公立大学現役合格者数は27名(23名) ・進路希望の実現に向け、早期からの進路意識の啓発、ICTを利活用した思考力、判断力、表現力の育成、学習意欲の向上と家庭学習の充実をより一層進めていく必要がある。 進路希望を実現するための学力向上と部活動や学校行事への意欲的な取組を高いレベルで両立できるよう、引き続き取り組んでいく必要がある。	・自分の進路について考え自律的に学習する生徒を育てる。 ・生徒一人一人の進路実現に向けて組織的に支援し、大学等進学率80%以上、国公立大学進学者30名以上を目指す。	・ガイダンス等の機会とClassi等のツールを活用し、1年生から進路意識を高めるとともに、家庭学習に取り組む姿勢と習慣が定着するように指導する。 ・家庭学習時間について、平日は学年+1h以上、休日は学年+2h以上の徹底を図る。 ・目標の実現に向けて最後まで粘り強く取り組む体力・精神力を育てる。 ・保護者等に進路情報を適切に提供し、進路意識の啓発を行う。
	・問いを持って主体的に学ぶ生徒を育てる。	・全ての教科等において探究型の学習を推進し、思考力、判断力、表現力を育成する。 ・ICT等を活用し、対話、アウトプット、他教科との関連、外部リソースの活用等を取り入れた授業改善に取り組む。 ・学習評価をとおして指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。
	・地域、社会問題に関心を持ち、課題を設定して解決に向けて探究する生徒を育てる。	・小千谷学に取り組む目的を全職員で共有し、全職員で生徒の探究的な学びを支援する。

		<ul style="list-style-type: none">・学校行事、部活動への意欲的な取組を促し、豊かな心と体、望ましい人間関係を形成する力、社会性や協調性を育む。・自他を大切にし、多様な価値観を認め合い、他者と協働して課題を解決できる生徒を育てる。・身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自立した行動ができる生徒を育成する。・保護者等及び地域の方々に信頼される学校づくりを目指す。・業務の削減、簡素化、効率化及び勤務時間外の在校時間の短縮を図る。	<ul style="list-style-type: none">・学力向上と部活動や学校行事への意欲的な取組を両立できるよう指導する。・生徒の情報を職員間で適切に共有する。・ひとりひとりの生徒の考え方を受容し、人格と人権を尊重する態度と言葉がけ、いじめを許さない態度と言葉がけで生徒を指導する・全職員が共通理解をもって挨拶の奨励、身だしなみの指導を行う。・学習環境作りのための清掃・整理整頓の徹底を図る。・学校HP、note等により積極的な情報発信を行う。・中学校訪問とオープンスクールにより本校の取組を紹介する。・中学校・地域と連携した取組を行う。・「部活動に係る基本方針」に沿った部活動運営を行う。		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価	
学校運営の適正化	組織としての取組の推進	運営委員会を中心に分掌・学年の連携を図る。	A	A	A
		全教職員が共通認識をもって生徒に授業、探究活動、部活動、生徒会活動、清掃等と、生徒指導、進路指導にあたり、生徒が学んだことを社会や人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」の育成を目指す。	A		
	情報発信の充実	ホームページを充実させ、各種メディアを活用して情報発信するとともに、メール配信システムを活用して緊急時の対応に備える。	B	B	
		学校自己評価結果、生徒・保護者アンケート結果を公表し、生徒・保護者・地域のニーズに応えられる学校づくりを進める。	A	A	
		学校評議員会、地域の声を聞く会をはじめ、地域との連携に努め、学校の取組状況を伝え、意見や要望を踏まえ業務改善に繋げる。	A	A	
教育課程の適切な実施	学習意欲の向上とその実現のための学習環境の整備	授業規律の更なる向上に努める。	A	A	A
		進学希望者、成績不振者、各々に対する指導を徹底する。	A		
	学校教育活動の円滑化	各種学校行事の適切な計画および円滑な運営に努める。	A	A	
		成績処理業務を円滑に進める。	A		
生徒指導の充実	基本的生活習慣の確立	各学期はじめの頭髪服装検査や日常の服装指導、スマートフォンの使用指導を行うことを通じて、身だしなみとマナーの向上を図る。	A	A	A
		あいさつの励行や公共マナー等の遵守を指導する。	A		
		いじめ防止対策委員会と連携し、いじめを許さない校内環境を確立するとともに、校内体制の適切な運用を図り、いじめに迅速に	A		

		対応する。			
	交通事故ゼロ・非行防止の実現	警察、地域との情報交換を積極的に行い、交通事故及び非行を防止する環境づくりに努める。	A	A	
		交通講話、原付バイク実技講習会を適宜実施するとともに、自転車交通マナーについて徹底した指導を行い、交通事故の防止を図る。	A		
		学年集会やLHR等で防犯安全講話を実施し、薬物乱用防止・SNS等の適切な使用の仕方・非行防止の意識の涵養を図る。	A		
進路希望の実現	進路意識の高揚	進路希望調査や模試の結果について、情報を適時に整理し、生徒・保護者に対し効果的に発信する。	A	A	A
		進路に関する講演会・説明会やガイダンスの内容を、3年間を見通して企画し、生徒・保護者の進路意識を早い段階から高められるような流れを構築する。また、探究学習（小千谷学）について企画・立案し、ポートフォリオにつながる活動を研究・実践する。	A		
	進路目標の実現	基礎学力向上のため、家庭学習時間「平日＝学年＋1時間以上」を徹底させ、模試等の学力試験の受験及び事後指導を行い、各教科と連携を図りながら学力の底上げを図る。	B	A	
		3年生を対象にした放課後進学補習や特編授業について、他の分掌や学年と連携しながら、進路希望実現に向けたシステムの改善を図る。	A		
生徒会活動の充実	生徒の自発的行動の活性化	生徒会行事である体育祭・文化祭、夏季・学年末球技大会などの行事を通じ、生徒の自主的・自発的活動と行動を促す。	A	A	A
		各種ボランティア活動、学校周辺の地域美化作業を計画・実行し、積極的に地域貢献活動に取り組む姿勢と機会を作る。	A		
		運動部・文化部関係なく、それぞれの目標向かい努力し、それを達成するための充実した活動に努め、文武両道を目指し指導を行う。	B		
	図書、視聴覚関係の利用の活性化	図書委員会や放送委員会、広報委員会等の各種委員会活動を通じ、図書館だよりや生徒会誌等による広報活動を活発にし、図書室等の利用の活性化を図る。	A	A	
保健環境安全教育の充実	健康教育の推進	保健指導、保健だよりや性の講演会等により健康教育の推進に努め、健康の保持増進への関心を高める。	A	A	A
		個別指導、健康相談の充実を図り、生徒の悩みや訴えに寄り添った支援を組織体制で行う。			
		清掃活動や校内安全点検により学習しやすい環境づくりに努めるとともに、生徒会生活環境委員・保健委員の活動を通して、生徒が自発的に環境整備や健康づくりを行う態度を育成する。	A		
	防災教育の推進	火災や自然災害等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるように指導する	A	A	
開かれた	生徒育成のた	P T A・後援会・同窓会等との連携に努め、関係者全員で小千谷	A	B	B

学校づくり	めの環境整備	高校の生徒を育てるための環境づくりを積極的に進める。			
		P T A総会出席者を増やし、P T Aと学校が一体となって生徒を育てるための環境づくりを積極的に進める。	B		
	保護者への情報提供の充実と連携の促進	生徒の進路希望実現に向け、進路指導部と連携をして保護者への進路情報提供を充実させる。	B	B	
学年指導の活性化 (1学年)	基本的生活習慣の確立	しっかりとした挨拶と時間を守ることを常に意識し行動するように指導する。	A		
		清掃、整理整頓を常に意識させ、公共の場としての教室の美観を保持する。	A	A	
		面談により生徒の状況を把握し、適切な指導を行う。	A		A
	自己実現に向けた学習習慣の確立	授業を大切にし、基礎・基本の定着を図る。	A		
		平日の家庭学習時間は2時間以上、休日の家庭学習時間は3時間以上とし、向上心を持ち努力する姿勢を養う。	A	A	
学年指導の活性化 (2学年)	基本的生活習慣の定着	挨拶、時間厳守、ルール遵守など、自律した行動ができるよう指導し、諸活動の中核としての自覚と責任感を養う。	B		
		遅刻、早退のない健康で意欲ある高校生活を送る。			
		長期欠席者を出さないために、家庭との連絡を密に取り、教員間の情報交換を行い、早めの対処をする。	B	A	
		計画的・適宜に生徒との面談を行うことにより、進路希望状況や家庭学習状況を把握し、適切に指導を行う。	A		
		自他の健康を守るため、規則正しい生活習慣の定着に向け、その都度必要な指導を行う。	A		A
	自己実現に向けた進路目標の明確化と学力の定着	進路ガイダンス、大学出張講義体験や校外模試、各種調査等を活用し、進路目標の明確化を図る。	A		
		Classi 等を活用して、家庭学習をするような環境作りを行う。平日「学年＋1」時間、休日「学年＋2」時間以上を目標に、向上心をもち努力する姿勢を養う。	A	A	
		「読む・書く・考える」ことを普段の授業から意識させ、大学入学共通テストで問われる「思考力・判断力・表現力」の土台を作る。	A		
学年指導の活性化 (3学年)	基本的生活習慣の定着	自己の立場を理解し、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど自律した行動ができるように指導する。また、他を思いやり、互いの立場を尊重する心を養う。	B		
		遅刻、早退、欠席をせず、健康で意欲ある学校生活を最後まで続ける。欠席がちな生徒に対して、家庭との連絡を密にとり、連携して指導に当たる。	C	B	A
	進路希望の達成	学年通信及び進路通信の発行や学年集会等を通して、受験生としての意識を早期に確立し、進路実現に向けた継続的な指導を行い	A		

		ながら、放課後補習や特編授業の実施で実践力を養う。		A	
		面談により生徒の実態を把握しつつ、進路情報の周知、面接指導、小論文指導などを通じて多彩な入試形態に対応した指導を行う。			
	学力の向上	授業を通して基礎学力の定着を図る。課題の工夫により家庭学習の一層の充実を図るとともに、受験に対応した基礎・基本を身につけるため自律した学習姿勢を身につける。	A	A	
		平日「学年＋１」時間、休日「学年＋２」時間以上を目標に、進路実現に向けて継続的に努力する姿勢を養う。	B		
		朝学習、週末課題、放課後補習、夏期補習、模試などを個別のものとし、できるだけ結びつけながら学力のさらなる伸長を目指す。	A		
教科指導 の充実	授業時間の徹底	チャイムスタート・チャイムエンドの徹底を図る。	A	A	A
	授業改善の推進	電子黒板、タブレット端末を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。	B	A	
		授業に対する満足度を高める。	A		
		学習評価をととして、指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。	A		
成果	<ul style="list-style-type: none">・各種行事について実施内容等を校内運営委員会で検討し、PTA、同窓会、後援会との連携を図り、地域の協力を得ながら実施した。昨年に続き体育祭と文化祭を一般公開し、沖縄への修学旅行を実施した。・校務支援システムを用いた成績・出席の管理実施の３年目、デジタル採点システム導入２年目であった。職員会議のペーパーレス化を進めるなど、全体的には業務の負担軽減に繋がったが、日々の生徒の出欠等の入力に徹底できず、教務部が頻繁に入力の確認と声掛けをするなどの負担があった。・学習用タブレットを生徒に一人一台貸与し、本格的なICTを活用した教育の実践の３年目であった。授業で活用する場面が少しずつではあるが着実に増加している。・特別指導といじめ認知案件が複数あった。生徒指導、いじめ防止対策委員会、教育相談委員会を中心に、SCと外部機関との連携を図り対応した。・総合的な探究の時間で行っている「小千谷学」を、地域の協力を得ながら活動を進めることができた。		総合評価		A